

緑化だより No.219

令和 7年9月号



ヒナノシャクジョウ(ヒナノシャクジョウ科)

今年8月3日、緑化センター職員によって発見されました。

本種は広島県内で点々と見つかっていますが、緑化センターでは未記録でした。

熱帯雨林では樹木は50～70mもあり、林床にはほとんど光が届かず、光合成を行うことができません。ラフレシア、ツチトリモチ、ヤッコソウなどは他の植物の根に寄生しますが、微小なヒナノシャクジョウ、シロシャクジョウ、ホンゴウソウ、ウエマツソウなどは菌類と共生して養分を得ています。

そのような熱帯雨林の生態を持つ植物が見つかったことは、緑化センターの森林が遠い昔に熱帯雨林であったことを物語る貴重な証人です。(関)

- | | |
|------------------------------|------------|
| ○ 季節の花(小水葱(コナギ)) | ○ 研修会のご案内 |
| ○ 水生昆虫の話(ミルンヤンマ) | ○ お知らせ・ご案内 |
| ○ 小さな世界こけ(コケの雄株
タイ類の造精器Ⅰ) | ○ 展示会 |

ひろしま 緑化の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>



広島県
緑化センター
二次元コード

季節の花

小水葱(コナギ)

「苗代(なわしろ)の小水葱(こなぎ)が花を衣(きぬ)に摺(す)り

馴(な)るるまにまに何(あぜ)か愛(かな)しけ」

作者不詳 万葉集 14 巻-3576

これを訳しますと

(苗代のコナギの花で衣に摺り染めましたが、衣がだんだん着なれてくるように、

あの娘(こ)も馴れるにつれて、どうしてこう愛(いと)しくなるのであろう。)

苗代は稲の苗を育てる場所ですが、古くは奈良・平安時代に始まった稲作の伝統的な方式のひとつで、水田の一部にモミ種を蒔いて苗が作られていました。

コナギはミズアオイ科ミズアオイ属の1年草で水田の雑草です。

東南アジア全域に広く分布しています。古い時代の帰化植物で稲作と共にコナギもやってきました。北海道の南部、本州、四国、九州、沖縄の休耕田や水田周辺に生育しています。

8 月下旬～10 月頃まで青紫色の花が咲き、開花と結実を続けて土に種子を落とした後、枯れてしまいます。

水葱^{なぎ}はミズアオイの古名とされ、「水葱」の字を当てるのは、

水中に生える葱^{ねぎ}の意で、草丈が低い(約 10 cm)ナギはコナギ、

草丈が高い(20～50 cm)ナギはミズアオイと言われ、ミズアオイは環境の変化でだんだんと減少して、岡山県では環境省の準絶滅危惧種に指定されています。

古くから共に食用、薬用として栽培され、青紫色の花は染料として有用な植物で大切にされていましたが、コナギは今では水田にはえる厄介な雑草です。(上村)



コナギ

水生昆虫の話

ミレンヤンマ

あっという間に夏休みが終わりました。今年の夏は全国各地で 40℃を越える日が続き、地球温暖化の危機的状況を肌身で感じた方も多いのではないのでしょうか？野生生物たちには特に厳しい夏だったかもしれません。

世界中に生息する昆虫の 40%が「劇的な減少率」個体数を減らしているそうですが、原因は気候変動によるもの以外にも、森林伐採や、開発等による池や沼・砂浜・草原の消失、里山環境の管理放棄など様々です。多くの昆虫は 35℃以上の高温になると活動が鈍くなり、40℃を超えると死滅の危険性が高まるそうです。

さて、8 月に開催した緑化センターの「水生昆虫を探そう」のイベントでは、様々な水生生物を観察することができました。その中でも、今年初お目見えだった「ミレンヤンマ」のヤゴをご紹介します。

ミレンヤンマ(トンボ目ヤンマ科)は、日本特産種の細身のヤンマです。成虫の体長は 61～80 mm 程度でメスの方が少し大きめ。丘陵地から山地の河川源流～上流域に生息し、6～11 月に見ることができます。



ミレンヤンマのヤゴ

日中は林内で木の枝などにぶら下がって休んでいますが、夕暮れ時になると活発に飛翔します。♂は溪流に沿って広範囲をパトロールしています。

卵の期間は5～8か月、幼虫(ヤゴ)の期間は半年～3年程度で、1年目は卵、それ以降はヤゴの姿で越冬しています。

ヤゴは、終齢幼虫で体長40～43mm程度。黒～茶褐色のやや大型のヤンマ型で、腹部背面正中に薄い斑点があつて、肢はストライプ模様です。山地溪流の流木や岩の間に堆積した枯れ枝の束、川石の底にしがみついた状態で待ち伏せて、水生生物を捕食して生活しています。

こちらのヤゴ、パッと見はコシボソヤンマのヤゴにも似ていますが、後頭角の角状突起がないのと、捕獲した時に同じように硬直状態(擬死)にはなるが、コシボソヤンマのヤゴほど反り返らないのと、ミルンヤンマのヤゴはすぐに動き出すので、観察してみると違いがわかりやすいです。

写真のヤゴは、10齢幼虫で20.0mm程度。まだまだ大きくなります。同じ場所にもっと小さなコシボソヤンマのヤゴも確認できたので、比べて観察してみると面白いかもしれませんね。(西村)

小さな世界 こけ

コケの雄株

タイ類の造精器 I

先月号ではセン類の造精器を紹介しましたが、今回はタイ類の造精器を見てみましょう。

タイ類の多くの造精器はルーペや顕微鏡を使わないと判別できない種類が多いのですが、目視で判別できるものを紹介します。

タイ類の造精器にはいくつかのタイプがあります。

① 茎の先に作るもの、②半月形のくぼみに作るもの、③葉の体の表面(背面)に埋まっているもの、④葉の表面(背面)に盤状に作るもの、⑤雄器托に支えられて傘のようにつくるもの、などです。

コマチゴケは、雌雄異株で茎葉体。5月ごろから茎の先端に、3枚の葉が三角形に取り囲んだ花盤状の造精器がみられます。

マキノゴケは、雌雄異株で葉状体。1～3月頃、葉の先端に半月形のくぼみができ、中に造精器がみられます。

ホソハミズゼニゴケは別名ムラサキミズゼニゴケとも言われ、雌雄異株。8～10月中旬頃、葉状体の中央部分が濃いチョコレート色になり、葉の表面(背面)の中央付近にブツブツが見えます。これが造精器で広く散生し体に埋まります。

ハタケゴケは、雌雄同株。幅約1.5～3mmの帯状で二又に分岐するやや小型のコケで、やや湿り気のある畑や庭の隅などを、気をつけて探すと見つかります。

9月中旬頃、葉の表面(背面)にブツブツが見えます。ホソハミズゼニゴケと同じく、この造精器も散生し体に埋まっています。(山根)



コマチゴケの造精器



マキノゴケの造精器



ホソハミズゼニゴケの造精器



ウロコハタケゴケの造精器

研修会のご案内

○ 9月 3日(水) 『秋の七草と植物観察会』

秋の七草について学び、植物を観察します

※自由参加、無料

10:00～12:00 学習室 集合

講師：森林インストラクター

駄賀 恒男

○ 9月 3日(水) 『やさしい植物観察入門』

～マメ科植物の特徴と見分け方 その1～

マメ科植物について学びましょう

※自由参加、無料

13:30～15:00 学習室 集合

コーディネーター

駄賀 恒男

○ 9月 5日(金) 『薬草講座』

～ニッケイ シナモン 桂枝 八つ橋 あれこれ～

※自由参加、無料

10:00～12:00 学習室 集合

講師：広島国際大学生涯学習自然園

前園長・薬学博士

神田 博史

○ 9月 15日(月・祝) 『親子いけばな教室』

～水辺の風景をいけよう～

※要予約(先着 15 作品)、材料費 800 円

10:00～12:00 学習室 集合

講師：嵯峨御流広島芸南司所

司所長 青野 直甫

○ 9月 27日(土) 『9月の植物観察会』

散策しながら植物を観察します

※自由参加、無料

10:00～12:00 管理事務所前 集合

講師：森林インストラクター

野田 圭一

○ 9月 28日(日) 『秋のきのこ入門観察会』

講師と一緒に散策路を歩き、きのこの解説を聞きます

※要予約(抽選、HPから申込み、期間 8/28～9/14)、無料

10:00～12:00 管理事務所前 集合

講師：きのこアドバイザー

川上 嘉章

○ 10月 3日(金) 『10月の植物観察会』

散策路を歩きながら植物を観察します

※自由参加、無料

10:00～12:00 管理事務所前 集合

講師：元NHK文化センター

アシスタント 上村 恭子

○ 10月 5日(日) 『秋のきのこ教室』

園内で自由にきのこを採集し、午後から学習室に持ち寄り鑑定します。

※自由参加、無料、採集用カゴ持参

10:00～14:00 第3駐車場 集合

講師：きのこアドバイザー

川上 嘉章

♪ ☆ お知らせ・ご案内 ☆ ♪

学習展示館は工事のため、ご利用の方にはしばらくの間ご不便をおかけします。

耐震工事：令和7年8月19日～令和8年3月末予定

森のふれあい動物園

10月26日(日) 10:00～15:00

餌やり体験やだっこでかわいい動物たちとふれあおう！

詳細はホームページをご覧ください。

・事業所名 みんなの牧場 ・所在地 東広島市河内町入野 6191-5
・種別展示 ・登録番号 第245004号 ・登録年月日 平成26年12月10日
・有効期限 令和11年12月31日 ・取扱責任者 荒古江 美徳



◎ 展示会

場所：レストハウス (ボード展示)

・野の花水彩画展

9月10日(水)～10月17日(金)

水彩画家 新川直行氏による植物画の作品展



場所：レストハウス (ガラスケース展示)

・つづらふじ手作りカゴ作品展

9月14日(日)～10月26日(日)

つづらふじ作家 飛河道雄氏による作品展

